



清涼

せいりょう



浄土真宗 本願寺派

清涼山 善教寺

〒663-8184 西宮市鳴尾町 4-10-7

0798(48)2224

www.zenkyoji.jp

※寺報の題字は親鸞聖人のご真筆より依用

亡き方を 偲ぶということ

私たちは亡き方を通して、様々な仏事や法事のご縁をいただきます。この仏事・法事のご縁は、亡き方を偲ばせていただくとても大切な時間となるものです。「偲」という漢字は、「人を思う」と書いて「偲」となっています。個人的な味わいですが、「偲ぶ」という言葉は、亡き方々に思いを馳せながら、いただいたご恩に心を向けていく、そんな在り方を私に教えてくれている言葉だと受け止めています。

そして亡き方を思わせていただくということは、先立って往かれた方が私に何を思われ、何を願ってくださっているのか、そのことを聞かせていただくご縁でもあります。実はお浄土へ先立って往かれた方々からかけられた願いこそ、いまこの私に届けられている「南無（まかせよ）阿弥陀仏（われに）」という仰せでした。以前、仏事や法事のご縁は、亡き方

からの「遺産相続」の場であると教えていただいたことがあります。世間では「遺産」と聞くと、「お金」や「土地」などを連想されることが多いかもしれませんが、亡き方が残していられるものは、何もそういったものだけではなく、私たちに様々な仏縁としての場を残してくださっているといわれるのです。

そもそも仏事や法事という言葉には、「仏」「法」という漢字が入っているように、「私自身が仏法に出遇わせていただく行事」であることを教えてくれています。仏前で掌を合わせ、頭を下げていく。そしてお念仏を申し、仏法を聞かせていただく。実はそのような仏縁としての場を私が賜っていくのが、仏事・法事といわれるものに他なりません。亡き方を偲ばせていただくということが、実は私自身が浄土真宗の教えと出遇い、お念仏の教えを聞かせていただく尊い仏縁であったと気づかされていく時、そのご縁一つひとつが、亡き方からの願いである「南無阿弥陀仏」をわが身にいただく、「遺産相続」の場となっていくのではないのでしょうか。

親鸞聖人は『浄土和讃』のなかに、

安楽浄土にいたるひと

五濁悪世にかへりては

釈迦牟尼仏のごとくにて

利益衆生はきはもなし

（『註釈版』・五六〇頁）

と詠われています。阿弥陀さまに抱かれ、お浄土の仏さまと成られた方は、お浄土でじつとされている方ではありません。「南無阿弥陀仏」の多名と一つとなつて、いま私のもとへ還ってきてくださっています。お浄土という確かな「いのち」の往く先を、私に教えてくださっているのです。

「今日もあなたと一緒だよ。お浄土へ向けて一緒に生きていこう」。大切な方の願いに生まれ、お浄土へ導かれながら生きていく時、決して空しくは終わっていかない安心をいただいた人生が、私の上に開かれていくのです。

副住職 赤井智顕

ご家庭で回覧し、として保存くだされば幸いです。

令和4年
8月6日

お盆法要（歓喜会）

新型コロナウイルス感染症拡大の現状を鑑み、昨年と同様、ご門徒のみなさまにお参りをいただいております。お盆法要は中止にする判断をいたしました。

お預かりしました法名紙・御仏前をお供えして、寺院関係者のみの内勤めにて読経させていただきます。

鳴尾町4丁目・ラジオ体操

夏休みに町内のみなさんが、お寺の境内にラジオ体操にきてくださいました。

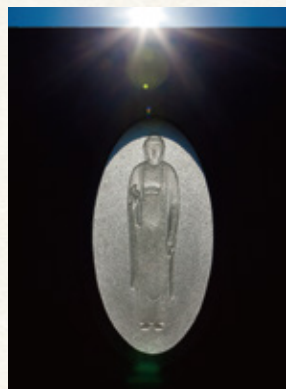
早朝より音楽にあわせ、体を動かし
イッチニ、イッチニ。
今年の夏も暑かったですね。



令和4年
11月5日

光の納骨堂・追憶廟 入仏法要

光の納骨堂、ならびに追憶廟にご安置するご本尊（阿弥陀如来立像）の入仏法要を、関係者の方々にご参拝いただき、無事にお勤めすることができました。
どちらのご本尊も古代のガラス技法である、パート・ド・ヴェールにて造仏された大変めずらしいガラスの仏さまです。善教寺の法宝物として、これからも大切にお護りさせていただきます。



追憶廟・ご本尊



光の納骨堂・ご本尊



追憶廟・入仏法要



光の納骨堂・入仏法要

令和4年
11月6日

報恩講

ほうおんこう

光の納骨堂・追憶廟 落慶慶讃法要



浅田 恵真和上のご法話



婦人会のみなさんが
準備をしてくださいました

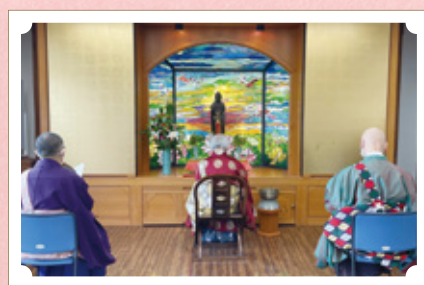
報恩講は浄土真宗を開かれた親鸞聖人のご命日の法要です。親鸞聖人のご恩徳を讃えながら、お念仏の教えを聞かせていただき、浄土真宗のお寺で最も大切な法要です。

またすでにご案内の通り、10年間にわたる計画と工期の末に、「光の納骨堂」ならびに「追憶廟」（合同墓）が完成いたしました。善教寺の歴史のなかでもこの大きな事業の完遂を、仏祖や祖師方に奉告させていただき、光の納骨堂・追憶廟の落慶慶讃法要も併せてお勤めいたしました。

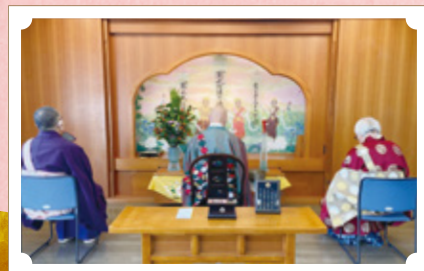
およそ三年ぶりとなる善教寺での法要開催に、たくさんの方々にお参りいただき、お蔭さまでとてもにぎやかで、有り難い一日となりました。



光の納骨堂・追憶の間



善教寺会館 2F ホール



善教寺会館 1F ホール

寺院関係者のみの内勤めにて、
元旦会のお勤めをいたしました。

令和5年
1月1日

元旦会

がんとんえ

令和5年
4月15日

親鸞聖人御誕生850年 立教開宗800年慶讃法要参拝



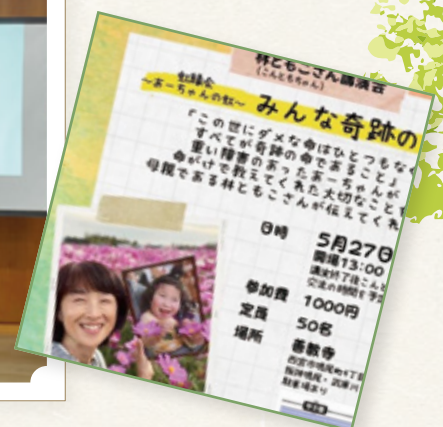
浄土真宗本願寺派の本山・本願寺では今年、親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年の慶讃法要が勤まりました。親鸞聖人がご誕生され、浄土真宗の教えを明らかにされるのがなければ、いま私たちが浄土真宗の教えに出遇わせていただくことはあり得ないことでした。

この度の慶讃法要は、本願寺からの参拝人数の割当の関係上、善教寺の寺族と役員関係者のみで親鸞聖人への感謝と、お念仏の教えに出遇えたことの喜びを込めて参拝させていただきました。

生きづらさを感じている子どもたちや、親御さまたちに、「いのち」の尊さや大切さを伝える活動をなされている林とも子さんさんの講演会が、善教寺を会場に開催されました。

令和5年
5月27日

虹縁会 林とも子さん講演会



令和5年
6月10日

永代経法要

今年の永代経法要は、
たくさんのご門徒のみなさ
まにお参りをいただき、お勤
めすることができました。
永代経のご懇志をご進
納くださいましたご家族の
みなさまにも、お焼香を賜
りました。仏さまにお参り
いただくお念仏のひと時
を、共に過ごさせていた
だきました。



副住職の法話



婦人会のみなさんが準備を
してくださいました

今後のお寺の 法要について

2020年の新型コロナウイルス感染症の拡大以降、お寺での法要開催は見送らせていただけてきました。しかし昨年の報恩講以来、世間の動向を注視しながら、徐々に再開の方向へと動いています。

今年は法要だけではなく聖典勉強会や、行事の再開等も視野に入れて、お寺の活動を行っていきたいと思います。その折には、またあらためてご案内させていただきます。ご参加くださいますよう、どうぞ宜しくお願いいたします。

浄土真宗 Q & A



御霊前と御仏前に違いがあるのですか？

通夜や葬儀に参列するとき、香典の表書きに悩むことはありませんか。そのようなとき金封が入れられていた袋や、冠婚葬祭のマナーを取り扱った本を見て判断される方も多いと聞きます。これらのほとんどは、お供えする時期によって表書きに違いがあることが記されています。たとえば通夜や葬儀、初七日から七七日（四十九日）法要までは「御霊前」と書き、七七日法要以後は「御仏前」と書くようにすすめています。この「御霊前」と「御仏前」の違いは、中陰（中有）という考え方によるものと思われれます。中陰とは人が死んで、次の生を受けるまでの中間の存在（迷い）を意味します。この考え方により通夜の際に「御霊前」を使うのでしよう。

しかし、浄土真宗は阿弥陀如来のはたらきによって、念仏申す人生を歩み、この世の縁が尽きるとき浄土に生まれて、すぐに仏に成る教えです。したがって、浄土真宗では「御霊前」を使用することはありません。

通夜や葬儀のみならず、七七日法要以後も「御仏前」と書きます。また御仏前は「御香儀」と書いても構いません。浄土真宗の教えに基づいた表書きになるよう心がけましょう。

前田 壽雄著 『仏事Q&A 浄土真宗本願寺派』（国書刊行会）66〜67頁引用



お寺の ホームページ

お寺からのお知らせや、今後の予定などに関しては、善教寺のホームページ（www.zenkyoji.jp）でも情報を公開しています。ぜひご覧ください。

善教寺仏教壮年会・婦人会への加入はいつでも募集中です。ご連絡をお持ちしています。

仏さまのご縁で結ばれたみなさんと、お寺でのひと時を過ごされませんか？

善教寺仏教壮年会 婦人会のご案内

善教寺 納骨堂・合同墓の 申込み受け付け



ご門徒のみなさまからのご要望をいただき、計画が動きだしてから約10年の歳月がかかりましたが、善教寺「光の納骨堂」ならびに合同墓「追憶廟」が完成しました。

「光の納骨堂」の設計・監修は、世界的にも著名な建築家であります安藤忠雄氏によるものです。本当にモダンで美しい納骨堂に仕上げてくださいました。納骨堂の中央にご安置しています阿弥陀如来像は、平安佛所・仏師の江里康慧氏と京都・陶額堂によって造仏された、世界でもめずらしいひかり輝くガラス仏をお迎えしています。また各納骨壇には、ご本山である西本願寺からお迎えしたご本尊をご安置しています。

「光の納骨堂」は、完全屋内型・全面バリアフリーで、どなたでも安心してお参りしていただけます。ぜひこの場所で、大切な方に掌を合わしていただき、心温まるひと時をお過ごしくださればうれしく思います。納骨堂・合同墓に関してご質問等ございましたら、善教寺までお問い合わせください。

※納骨堂・合同墓につきましては、申込みを受け付けております。

善教寺パドマ合唱団

コーラス
団員募集中



コーラスの指導をしてくださっている東塾 裕子先生

毎月2回・木曜日の13時からコーラスの練習をしています。どなた様も入団をお待ちしています。歌うことは健康には勿論のこと、仏教讃歌は歌詞もメロディーもとっても素晴らしいので心の健康にも良いですよ♪

(詳しい日程に関しては、直接、善教寺までお問い合わせください)

新発意の成長記

※「新発意」は、「しんぼつち」や「しんぼち」と読みますが、元は発心して僧になつたばかりの人や、仏門に入つてから間もない人を意味していました。それが転じて、お寺の子どもをさす言葉としても使われています。

副住職夫妻の長男・尊頭たかあきは9歳。今年の4月から小学3年生になりました。次男・顕至けんしは5歳になり、幼稚園の年中組に進級しました。

野球に熱中している長男は、グローブとボールを持って自主練習に励んでいます。最近では地域のクラブチームにも入り、本格的な練習にも参加するようになりました。そんな兄の背中を追って、次男も小さなグローブを携え、日々ボールを追いかけています（笑）。

お寺で法要がつとまる時には、子ども用のお念数と式章をつけて、兄弟そろつてお参りしてくれています。子どもの成長していく姿に、親の私たちがうれしさを感じています。みなさまには今後ともお育てくださいますよう、宜しくお願いいたします。



お寺の風景



(左) 法要の開始を告げる喚鐘かんしょう (右) 日本堂の遺瓦

お寺の関連書籍

副住職が執筆した書籍、『なぜ？ どうして？ 浄土真宗の教学相談』が自照社さまから出版されました。「お念仏は亡くなった人のため？」、「他力」の意味は？」「どうして悪人が救われるの？」など、浄土真宗についての12の質問に対して、お聖教の言葉にたずねつつ、み教えやお勤めの意味について書かせていただいています。ご興味のある方は善教寺までお問い合わせください。



NHK文化センター講座

NHK文化センター（神戸教室）『歎異抄』に聞く～親鸞聖人の歩まれた道～の講座に、副住職が毎月・第4金曜日に出講しています。

<http://www.nhk-cul.co.jp/school/kobe/>

広島仏教学院 オンライン入門講座

広島仏教学院の「仏教・真宗入門講座」に副住職が出講しています。『歎異抄』の講座を担当しています。

ご興味のある方はいつでもご連絡ください。

<https://www.gakuryo.jp/>



詳しい日程に関しては、直接善教寺までお問い合わせください。

副住職がみなさんと一緒に聖典の言葉を読みすすめています。コロナ以降、しばらくの間、休会していましたが、今年の9月から再開いたします。どなた様もどうぞお気軽にお越しください。

聖典勉強会